

「私の想い出」

副会長 盛田 久生

織田幹雄さん、申すまでもなく日本人としてオリンピックで初めて金メダルを取られた人である。五年前、九十五才で他界された。長生きされたと思つた。織田さんの著書「跳躍一路」は高校時代に購入し何時も手の届く所に置き、何回となく繰り返し読んでいたので、私にとっては尊敬する心の師であり、もちろん雲の上の人であった。

その織田幹雄監督と一緒の米国遠征が決まった。夢のような話であり、私が二五才の時であった。選手は僅か四名で一ヶ月間の武者修行でカリフォルニア・ロサンゼルス・サンフランシスコを転戦しながらであったが、この遠征はグラスファイバーを購入する目的もあった。小人数だったので家族的な雰囲気が一番楽しい遠征だったと思つた。普段の織田さんは無口でグラウンドでは口数が少なく細かく指導される事はあまりなかった。

夕食は五人でテーブルを囲むように座るのであるが、織田さんのすぐ横が私の指定席になっていた。どうしてそうだったのかは覚えていない。織田さんはウイスキーが好きで夕食時は毎日飲んでおられた。選手たちが食べ終わる頃からやあ話が始まるのである。その日の反省は一人一人について話をされる。選手は全員が当時の日本のトップクラスだったのであまり細かい指導でなく、主として基本動作と技術面のポイント指導が多く実に鋭い感覚で指摘された。流石に百戦錬磨、ご自分の選手時代から、そして日本チームの監督として永年世界を歩いてこられた豊富な経験からくる話に選手は食い入るように聞き入っていた。話も後半になるとほろ酔い気分も手伝って昔話に花が咲き、普段は滅多に聞けないエピソード等固有名詞まで出てくるのである。中でも織田さんの同僚でライバルでもあった南部忠平さん(同年齢、早大で一年先輩)のことについて話される時は少年のふつと目が輝き、昨日の事のように熱く話されるのである。

南部さんは、明るくユーモアのある方で織田さんとはまるで異質な性格の方であったが、お二人の共通点は多く、ことに陸上競技に対する燃えるような情熱は桁外れであったといつも感じていた。「情熱」好きな言葉である。それは人の心を動かす、大きなインパクトを与えてくれる。何

事であれ、情熱を傾けて取り組んでいる人の姿は感動的であり、とても美しい。純粹で何びとも立ち入るスキもない無の世界といえるのだろうか。のめり込み過ぎて周囲が見えなくなる瞬間さえもある。自分と対話しながら積み上げてゆく際限なく広がる夢はきっと魅力的だったに違いない。現役選手として活躍できる時間はそう長くはない。青春を燃やせるだけ燃やすことのできる人は幸せな人だと思つた。遠くお一人のお人柄を偲び、お二人の素晴らしい笑顔を思い出しながら、しばし昔に浸った次第であります。

「始良陸協の現状と課題」

始良地区陸協理事長 池田 紀雄

厳しかった今夏の残暑も終わり、トラックシーズンも残り少なくなつてまいりました。選手諸君も今年の反省を踏まえ来年度への目標に向けて決意を新たにしていると思ひます。これからいよいよ駅伝シーズンに入っていきます。今年こそはと練習に励んでいる競技者・市民ランナーそして健康づくりのジョギャーをよく見かけます。

さて、理事長を引き受けて三年目、暗中模索で今日に至っています。これまで先輩各位が長年にわたり一市一町を組織化し昔々と築いてこられた始良地区陸協は、地区民のバックアップに支えられて成長してまいりました。これからも地区民、陸協会員、企業、学校、団体等の協力を得ながら維持・発展させていくことが私の責務と考えております。主催事業を持つておりますが、県下の皆様の協力で多くの参加者を得て心強く感謝しております。私どもは地区の活性化・健康づくり、陸上競技の底辺拡大、選手の発掘・育成等に微力ながら寄与できればと考えています。

ところで当協会は現在一一 余名の会員のもと七つの専門部を構成し部長を中心に業務を推し進めており、徐々に定着してきました。新しい試みとして主催事業の要項を冊子化し年度当初県内の企業、学校、クラブ、団体に配布して協力をお願いしております。また、審判員への交通費一部補助、記録の速報化、功労者の表彰、各市町広報誌への主催事業年間計画掲載依頼を実施しており、各市町社会体育担当者との情報交換、地区体協連との連携等々は絶えずマンテナを高く保ちて受信するよう努めております。「言ひは易し、行ひは難し」でこれからも足元をしっかりと見据えながら推進していきたいと思ひます。

しかし、これからの課題も山積しており、決して順風満帆ではありません。公認審判員の高齢化からの脱皮、学校

現場の指導者不足と部員の減少、クラブ制度化の模索、人的資源の発掘現実問題として直視し避けては通れない課題ととらえています。中長期展望は、市町合併後の大きな課題として協会の再編が考えられます。来年度は、第五八回始良県体を控え準備委員会が発足し、地区民の期待も大きく地区陸協としても本格的に準備・選手強化に取り組み、その期待に応えていかねばならないと痛感しています。おそらく第五八回始良県体が現体制での最後の大会になるのではと聞きますがこのような任意の団体は、世間の風潮に弱く倒壊する危険をはらんでおり、地区民、会員同志のコミニケーションが最も大切な気がします。よきアドバースをお願いします。

「九州陸上競技選手権大会」

標記大会は八月二十二日から二十四日の三日間、長崎県立総合運動公園陸上競技場で開催。

本県勢は、男子八、米で宮脇征治(星峯中教)が五連覇を飾つたのをはじめ、男子内盤投で市来優馬(徳州会)、女子一、米で瀬戸口 渚(県体育施設協会)、女子一、米障害で柴 梨沙(鹿大)がそれぞれ優勝した。

特に、瀬戸口は本人の持つ県記録を、秒 四更新する今季日本ランキング二位となる大会新記録を樹立し、優秀選手賞に輝いた。

本県勢優勝者の記録は次のとおりです。

- 男子八、米 宮脇征治 一分五四秒九七
- 男子内盤投、市来優馬 四五米九一
- 女子一、米 瀬戸口渚 十一秒五八
- 女子一、米H柴 梨沙 十四秒三三

「ユニバシアード陸上」簡報報告

八月韓国の大邱で開催された標記大会に日本代表として出場した橋ノ口滝一(山梨学院大・伊佐農林高卒)は、五米七一、米に出場、世界の強豪を相手に力走し五、米で六位、一、米で三位に入賞した。またモロッコから国分市の第二工業大学に留学中のアブドウラバイ選手はモロッコの代表としてハーフマランに出場し見事優勝した。おめでとうござります。

国民体育大会代表選手名簿は、省略させていただきます。ご了承下さい。